

歴史的資源を新たな 筑後市のシンボルに

五十嵐 多喜子 議員

は、不満度が高い。歴史的資源を観光資源として、開発、利用できないか。

市長 来年3月には、新幹線筑後船小屋駅が開業する。

筑後市を訪れる方を飛躍的に増やしたい。広域観光の推進と市内の観光資源をさらに魅力的になるよう取り組みたい。

問 学校教育で「もてなし教育」が実施され訪れる観光客にガイドしたり、観光パンフレット作成等でふるさとの魅力を伝えているところがある。筑後市はどうか。

教育長 郷土の歴史を大事にしよう。羽犬塚小6年生が筑後市のガイドブックを作る計画があると聞く。

継続的に若者の 声を拾いあげる しくみづくりを

問 若者は全人口の3割。

国は子ども若者育成推進法を定めている。若者の健診率、投票率の低さ。無業の人の増加。うつの若者の増加。全国の自殺者も多い。市の将来のためにも若者の実態把握を。

市長 若者も二極化が進んでいるのかなと思う。

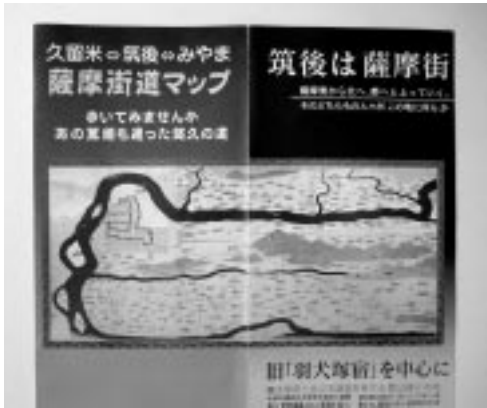
社会教育課長 若者の意識や意向を把握する事に努めたい。

市長公室長 若年層が広報を読まない現実がある。若者向けの内容検討中。

問 九州新幹線さくら号の試運転がスタート。さらなる市の活性化を思うと感慨深い。筑後市の歴史を見ても常に道路や鉄道が交通の要路として、その役割を果たし発展してきた。

坊津街道は、多くの人が行き交い歴史的遺産も多く残されている。

都市計画マスタープランの中で市民の声では、町並みや歴史的遺産について



薩摩街道マップ
(地域資源の全国展開プロジェクト編)

ジェネリック医薬品の推進と情報 開示で医療費抑制を

山下 秀則 議員

近年のゲリラ豪雨に 対し災害予防対策は 万全か

高め市民の安全を第一に災害予防対策を実施するよう指示している。

地域支援課長 大雨による

問 筑後市においても局所的なゲリラ豪雨が多発し集中豪雨による道路冠水や住宅浸水の被害が発生している。市の災害予防策に対する具体案は。

市長 市職員の防災意識を

浸水、道路冠水の危険性の高い場所はおおむね把握できている。避難勧告の発令基準は、現状では基準を設けていない。しかし、近年の状況を考えると、避難勧告の発令基準は必要であると考える。

問 ジェネリック医薬品の薬価代は、先発医薬品の2割から7割と低く抑えられ患者本人の負担が少なくなり、医療費全体も抑制される。筑後市においても医療費抑制対策については、重要な課題であると思うが市の見解は。

市長 日本ジェネリック協会の試算からも医療費の抑制に効果があるので、今後普及推進に努めていく。

問 国保加入者に対し、ジェネリック医薬品と先発医薬品の薬価差額を情報開示することで、選択の幅を持ってもらい推進に大きく寄与できると考えるが市の見解は。

市民課長 一部の自治体や民間企業の健康保険組合では実施している。このシステムは小規模自治体では実施できないのが現状なので、国保連合会のシステムを使って通知を発送したい。



上段は先発医薬品と
下段は後発医薬品 (ジェネリック医薬品)